

## 「第3回パリ協定とSDGsのシナジー強化に関する国際会議」の結果について

「第3回パリ協定とSDGsのシナジー強化に関する国際会議」が7月20日～21日に日本で開催され、世界各国から130名以上のスピーカーが参加しました。公益財団法人地球環境戦略研究機関(IGES:アイジェス)は、国連経済社会局(UNDESA)および国連気候変動枠組条約(UNFCCC)事務局が共催し、環境省がホストした本会議に、国連大学とともに協力しました(<https://www.un.org/en/climate-sdgs-conference-2022>)。

本会議は、気候変動対策と持続可能な開発目標(SDGs)の相乗効果(シナジー)を利用した行動基盤を確立することで、各国、地域、そして関係ステークホルダーの行動を強化し、加速することを目的に開催されました。7月20日20時から始まったハイレベル・セグメントには山口壯環境大臣をはじめとした各国閣僚、国連機関・組織のトップ、ビジネスリーダー、科学者、ユースの代表が参加し、気候変動対策およびSDGsの野心を高める必要性を強調したほか、共同実施の強化を緊急に進めることや、資金や能力開発などのギャップに対処する必要性を共有しました。

武内和彦理事長は閉会の辞において、2030年までに生物多様性を回復させ、生物多様性の野心的な世界目標を達成することの重要性を呼びかけました。とりわけ、気候変動に関する政府間パネル(IPCC)、生物多様性及び生態系サービスに関する政府間科学-政策プラットフォーム(IPBES)、地球環境概況(GEO)に関する運営委員会などで蓄積された科学的知見を政策に反映させ、地域社会での「持続可能な地域づくり」の実践につなげなければならないことを強調しました。

IGESは、気候変動対策とSDGsの相乗効果を念頭においた行動が、2030年までのSDGsおよびパリ協定の1.5度目標の達成に重要となっていることを踏まえ、過去2回の会議における武内和彦理事長らの登壇に加え、環境省とともにフォローアップのイベントを開催するなど、積極的な役割を果たしてきました。

### 本会議の成果

#### カンファレンスバックグラウンドノート(背景資料)

情報を集約したカンファレンスバックグラウンドノートは、本会議の準備プロセスの一環として作成され、ディスカッションの基礎とされました。気候変動対策とSDGsの相乗効果を活用した最新の事例報告や分析に基づいて作成されています。IGESは本ノートの作成においてテクニカル・アドバイザー・グループのメンバーからの意見を取りまとめた全体の文書作成を行うなどの主導的役割を果たしました。

(仮訳)第3回パリ協定と持続可能な開発のための2030アジェンダのシナジー強化に関する国際会議カンファレンスバックグラウンドノート・エグゼクティブサマリー: <https://www.iges.or.jp/jp/pub/synergy/ja>  
 Conference Background Note(原文): <https://www.iges.or.jp/en/pub/synergy/en>

#### エビデンスに基づく行動の後押し

本会議では、エビデンスに基づく行動を後押しするために評価と情報が提供されました。IGESを含むテクニカル・アドバイザー・グループのメンバーは、知識の体系化と普及を促す「[気候変動とSDGsのシナジー知識プラットフォーム](#)」に技術的支援を提供するとともに、本会議への情報提供を目的に関連するテーマのテクニカルブリーフを作成しています。

#### カンファレンスサマリー

今後発表される本会議のカンファレンスサマリーは、気候変動対策とSDGsの相乗効果について理解を深め、より効果的な促進に大きく寄与することを目指し、9月の国連総会、11月の国連気候変動枠組条約第27回締約国

会議(COP27)、持続可能なアジア太平洋に関する国際フォーラム(ISAP)および12月の生物多様性条約第15回締約国会議(CBD COP15)、日本が議長国を務める2023年のG7、2023年3月の持続可能な開発に関するアジア太平洋フォーラム(APFSD)、2023年7月の国連ハイレベル政治フォーラム(HLPF)、2023年9月のSDGサミットや、その他の主要なグローバルプロセスへの重要なインプットとなります。

### 変革のためのパートナーシップの構築

持続可能な開発のための2030アジェンダ(2030アジェンダ)とパリ協定の目標達成につながる相乗効果のある行動を強化するために、政府、企業、アカデミア、市民社会、コミュニティ、個人など、すべてのステークホルダーが協力する必要があります。なかでも、次世代を担うユースは今日の地球環境による危機の影響を最も受ける当事者でもあり、より良い未来の創造に向けて、気候変動や生物多様性をはじめとする環境分野の諸課題に対して積極的に声を上げるなど、国内外で重要な役割を果たす主体でもあります。そこでIGESは、本会議における特別サイドイベント「[Youth Day](https://www.jyps.website/post/20220720_synargiesconference)」(https://www.jyps.website/post/20220720\_synargiesconference)の開催を支援したほか、そこでまとめられた提言を、ユース自らが本会合の“The Way Forward”セッションで紹介する機会を設けるなど、さらなる有意義な関与の機会を提供していくための後方支援を行いました。

**【本件に関するお問い合わせ】**

公益財団法人地球環境戦略研究機関 (IGES)  
戦略マネジメントオフィス

広報担当: 勝池(かついけ)、庄(しょう)、  
Tel: 080-7410-1620  
Email: iges\_pr@iges.or.jp

### 公益財団法人地球環境戦略研究機関(IGES: Institute for Global Environmental Strategies)について

IGESは、アジア太平洋地域における持続可能な開発の実現に向け、国際機関、各国政府、地方自治体、研究機関、企業、NGOなどと連携しながら、気候変動、自然資源管理、持続可能な消費と生産、グリーン経済などの分野において実践的な政策研究を幅広く行っています。1998年、日本政府および神奈川県の実績により設立。本部は神奈川県葉山町に所在し、約150名の研究者を擁し、その3分の1強が外国籍。関西(兵庫県)、北九州、北京、バンコク、東京の各センター・事務所と共に、グローバルおよびアジア太平洋地域のネットワークを生かした戦略研究を展開しています。